

平成21年度一般会計当初予算説明資料

9款 警察費

2項 警察活動費

3目 交通指導取締費

会計課（内線：8502）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起 債	その他	一般財源	
交通安全施設整備費(信号機等整備事業)	978,537	1,184,620	△206,083	231,011	<182,000> 182,000		565,526	県費負担 747,526
トータルコスト	1,147,551千円（前年度 1,341,029千円）							
従事する職員数	正職員：20.40人							
主な業務内容	地元説明、調整、工事発注、進行管理、関係機関との調整、国との調整							

事業内容の説明

1 事業概要

交通安全の確保及び円滑化のため、交通管制、信号機、道路標識及び道路標示等交通安全施設を整備するとともに既設安全施設の維持管理を図る。

また、交通管制システムの標準化を行うほか、中国横断自動車道姫路鳥取線(河原～鳥取IC間)、河原インター線及び国道181号バイパスの道路標識、道路標示を整備する。

2 事業計画

区 分		補助事業	単独事業	計	備 考
工 事 費	交通管制	248,850	25,258	274,108	管制システムの改修 エリア拡大2基、 情報収集装置1式
	信号機、道路標識 道路標示	153,390	84,617	238,007	信号機新設8基
	姫鳥線、河原インター線、 R181バイパス関連	45,066	23,512	68,578	道路標識、道路標示
調査費・事務費		8,586	7,682	16,268	
交通管制システム サーバリース料		6,131	384	6,515	システムの標準化 平成21年度は1ヶ月分
維持保守費			375,061	375,061	
計		462,023	516,514	978,537	

※単独事業費（251,515千円）を鳥取県地域活性化・生活対策臨時交付金充当として、平成20年度2月補正で計上。

3 交通管制システムの標準化について

交通管制システムは、上位装置、下位装置、端末装置の3層で構成されている。このうち、上位装置と下位装置については、汎用電子計算機を使用しておりハードウェアの制約等から単一メーカーの機器である。このため、警察庁においては複数メーカーによる競争が可能となるオープン化に切り替えるためにC/S化（クライアント・サーバシステム）の標準仕様書を作成し、平成20年度から24年度にかけ国庫補助対象事業（鳥取県は平成21年度）として全国の交通管制システムの整備・更新を図る計画である。これにより、コスト削減が可能となる。

※上位装置： 下位装置からの情報に基づいて渋滞制御や渋滞情報の提供等の処理を行う。

下位装置： 各端末装置を束ねて各端末装置からの情報を上位装置に上げ、上位装置からの命令により、その地点の交通状況に応じた交通管制を行う。

端末装置： 路上に設置された集中制御機、情報収集装置等

(注) 起債欄の上段< >書きは交付税措置額を除いた金額である。

総負担額は起債欄の< >書きの金額と一般財源の金額を加算したものである。